



今号の主な内容▶2面：新型コロナウイルス感染症関連情報・5月6日(水)まで市内公共施設等の休館期間を延長します／4・5面：特集 令和2年度 一般・特別会計予算の概要

受けていますか？ がん検診

がん検診の受診率向上のため、今年度は次の分野でレベルアップを図ります！



- ①胃・肺・大腸がんセット検診の会場を追加し、受診枠がこれまでの約3倍になります。
- ②肺がん検診にオプションで大腸がん検診を行えるようになります(詳しくは市報5月1日号でお知らせ予定)。
- ③子宮頸がん検診の委託先に公立昭和病院を追加します(詳しくは市報5月15日号でお知らせ予定)。



胃・肺・大腸がんセット検診の申し込み

定員 合計 260人

対市に住居登録のある40歳以上(昭和56年3月31日以前生まれ)で胃・肺・大腸がんいずれの検診も希望し、受診が可能な方。定員合計260人(応募者多数の場合は抽選。抽選結果は4月末にお知らせ予定) 日場6月6日(土)=健康センター(定員90人)、6月~12月(後日受診機関に要予約)=複十字病院(定員170人) 費2,000円(喀痰検査をする場合は2,500円)。50歳以上(昭和46年3月31日以前生まれ)の方は無料。世帯全員が住民税非課税(健康推進課へ申請)、生活保護世帯、中国残留邦人等支援給付対象者は、その証明書を提出すれば費用負担はありません。内胃がん検診=バリウムによるエックス線撮影、大腸がん検診=便潜血反応検査、肺がん検診=肺のエックス線撮影、喀痰検査=50歳以上(昭和46年3月31日以前生まれ)で、喫煙指数(1日の喫煙本数×喫煙年数)が600以下

上の方(現在は喫煙していない方も含む) 申問4月15日~17日(消印有効)に電子申請またははがき(63円切手貼付)で健康推進課健康推進係 ☎042-497-2075へ ※窓口・電話での申込みはできません。 ※検診の日時は、変更になる可能性があります。

【はがき記入例】

- 裏 令和2年度 セット検診申込み
1. 住所
 2. 氏名(ふりがな)
 3. 生年月日
 4. 電話番号
 5. 喀痰検査の該当有無
 6. 受診希望場所
 - ①第1希望
 - ②第2希望
 - ③どちらでも可



詳しくはこちら

63円切手を忘れずに！

送付先

〒204-8511 清瀬市健康福祉部健康推進課 行 ※個別郵便番号のため住所は不要。

Q. すべてのがんに対する検診をしているの？

A. 市では国が推奨する5つのがん検診を実施しています。

多くのがんを見つけられる検診が必ずしもよい検診、というわけではありません。

国が推奨する検診は、受診間隔や対象年齢を守って定期的を受診すれば、死亡の可能性が減少するとい

たがん検診のメリットが、デメリットを上回ることが科学的に証明されているものです。そのため、市では国が推奨していない前立腺がん検診を令和2年度より廃止しています。

種類	検査方法	推奨間隔	対象年齢	市報掲載予定
肺がん検診	質問、胸部エックス線検査、喀痰細胞診(50歳以上で喫煙指数600以上の方)	1年に1回	40歳以上	・10月1日号 ・1月15日号
胃がん検診	問診、胃部エックス線検査			・5月1日号 ・7月15日号 ・9月1日号
大腸がん検診	問診、便潜血検査			
乳がん検診	問診、マンモグラフィ(乳房エックス線検査)	2年に1回	40歳以上の女性	・5月15日号 ・9月1日号
子宮がん検診	問診、視診、内診、細胞診			20歳以上の女性

Q. 昨年までの前立腺がん検診は推奨されていなかったの？

A. 前立腺がん検診で行われる前立腺がん特異抗原(PSA)検査は、前立腺がんの早期発見をするうえで有用な検査です。しかし、死亡率減少効果の有無を判断する証拠が現状では不十分であることや過剰診断などの不利益が多いことから、国の指針では自治体で行う検診として推奨されていません。自治体によるがん検診は、がんを早期発見し、適切な治療

を行うことで、がんによる死亡を減少させることを目的に実施しているものですが、国の指針には、検診方法や受診間隔が定められており、指針に基づくがん検診の実施が推奨されています。このことから、東京都の助言に基づき、指針外検診である前立腺がん検診は令和元年度をもって廃止しました。

Q. 人間ドックで行うがん検診と何が違うの？

A. がん検診は2つの種類に分かれています。

市が行っている対策型検診では対象集団全体の死亡率を下げることを目的としています。また、人間ド

ックで行っているがん検診は個人の死亡リスクを下げることを目的としているなどの違いがあります。

Q. がん検診にもメリットとデメリットがあるの？

A. がん検診にもメリットとデメリットがあります。

がんの早期発見・早期治療による死亡率減少効果や、がん検診で「異常なし」と判定された場合、安心を得られるといったメリットに対し、次のようなデメリットもあります。

①がん検診でがんが100%見つかるわけではありません。

②結果的に不要な治療や検査を招くことがあります。

③偶発症のリスクがあります。

判定されてしまったり、健康や生命に影響しない微小ながんを見つけてしまうことにより、余分な精密検査を受けることなどによる身体的・心理的な負担がかかってしまうことがあります。

検査によっては、放射線被ばくや出血、穿孔(胃壁などに穴が開くこと)などの偶発症が起こる場合があります。

これらのことを理解したうえで、がん検診を受診しましょう。

いまや2人に1人はがんになる時代と言われています。ご自身の健康状態を知り、健康管理に生かすため、職場などで検診機会のない方は、ぜひがん検診にお申込みください。

問健康推進課健康推進係 ☎042-497-2075



乳がん検診を受けに行こう！

複十字病院 乳腺センター長 武田泰隆



皆さん、「乳がん年齢」をご存じですか？

日本人の年齢別乳がん罹患率ではピークが40~44歳代と60歳過ぎにあります。欧米では、高齢になるほど乳がんの罹患率が高くなりますが、日本人は比較的若い方が「乳がん」になるのが特徴です。女性として社会的、家庭的にも大切な時期にがん罹患してしまうことを意味しており、40歳~50歳代が「乳がん年齢」と言われています。

乳がんステージⅠの5年生存率(全がん協：2004~2007年症例)は99%で早期に治療を行えば、命に影響しないことが分かっています。そのためには、乳がんを「早期に見つける」ことが重要です。「早期に見つける」ということは症状が出たらすぐに病院に行くことではありません。症状の出る前に「検診」を受けることです。皆さん、40歳から定期的に乳がん検診を受けましょう。

【乳がんのポイント】

1. 乳がんの罹患率は近年急速に上昇している(日本人女性の11人に1人が乳がんにかかる)
2. 「乳がん年齢」は、社会的にも家庭的にも重要な時期でもある
3. 乳がんになって乳がんで亡くなる人は5人に1人である